

令和 7 年 10 月 15 日

令和 7 年度学科別海外研修実施報告書

学 科 名	獣医学科																																						
研 修 名 称	令和 7 年度（第 3 0 回）日本大学生物資源科学部獣医学科 ワシントン州立大学夏期獣医臨床研修																																						
実 施 期 間	令和 7 年 8 月 3 日 ～ 令和 7 年 8 月 1 8 日 （1 6 日間）																																						
渡 航 先	米 国 ワシントン州 プルマン市 ワシントン州立大学																																						
参 加 者 数	<table><tr><td></td><td>1 年次</td><td>2 年次</td><td>3 年次</td><td>4 年次</td><td>5 年次</td><td>6 年次</td><td>計</td></tr><tr><td>男子</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td>女子</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td>計</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td><td>0</td><td>4</td></tr></table> 【実施許可後の辞退者等】 無								1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	計	男子	0	0	0	0	2	0		女子	0	0	0	0	2	0		計	0	0	0	0	4	0	4
	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	計																																
男子	0	0	0	0	2	0																																	
女子	0	0	0	0	2	0																																	
計	0	0	0	0	4	0	4																																
引 率 教 職 員	枝村一弥 関口尚希																																						
認 定 科 目 名	総合獣医学演習 B																																						
修了証の有無	有																																						
研 修 概 要	①研修概要 1) 実習内容 ・ 犬、猫、馬、牛、他における病気の最先端の診断および治療を習得する目的で、ワシントン州立大学動物教育病院で診療チームの一員となる実診療実習を行った。 2) 来年度に向けて ・ 夏期研修の実施期間は、2 0 2 6 年 8 月 1 6 日からの 2 週間とする。 ・ 研修内容については今年度のカリキュラムを継承し、シミュレーターや動物遺体を使用し診療に必要とされる技術を習得するための前臨床実習・病理学的検査実習と実際の患者と対面する病院での実診療実習とする。 ②研修前説明会及びミーティング 1) 研修出発までの行事 令和 7 年 4 月 4 日 令和 7 年度（第 3 0 回）日本大学生物資源科学部獣医学科ワシントン州立大学夏期獣医臨床研修説明会（9 号館小動物臨床講義室） 令和 7 年 4 月 1 5 日 申込み前ミーティング（9 号館小動物臨床講義室） 令和 7 年 7 月 2 日 研修科の選定（9 号館小動物臨床講義室） 令和 7 年 7 月 2 9 日 直前ミーティング（9 号館小動物臨床講義室）																																						

2) 事故対策について

- ・ 参加者全員に、海外での事故やテロ等の危機管理に関する講義を事前に受講させた。
- ・ 学内保健室の協力の下に、研修前に各学生から健康状態を申告させ、それをもとに個人用健康カードを作成した。研修中、常時、その記録を携帯することにより、救急時の医療対応が速やかに行えるようにした。
- ・ 毎朝、学生の健康状態を可能な限りチェックした。
- ・ 学内保健室から救急セットを借用し、実習時にも対応できるよう各引率教員が携行した。
- ・ すべての教員が臨床実習におけるチューターとなり、日本語での補足ならびに英語でのコミュニケーションに支障が無いように対応した。
- ・ 引率教員は各自携帯電話を常時携帯し、お互いの連絡や、日本への連絡に常時対応できるようにした。
- ・ 外務省旅レジへの登録を促した。

3) 研修スケジュールについて

- ・ 添付のパンフレット参照のこと

4) 宿泊地について

- ・ コートヤード マリオット プルマン（住所：1925 NE North Fairway Road, Pullman, WA 99163, USA）
- ・ 1人で1部屋ずつが割り当てられた。キャンパス内の設置されたホテルデリ、学生に理想的な修学環境が与えられた。研修場所への移動も徒歩で可能であった。

5) 学生生活について

- ・ 事前に宿泊地周辺の地図（店舗の位置を記載）を配布していたので、学生の食事、買い物などがスムーズに行えた。
- ・ 徒歩では困難な食料品や雑貨品の買い出しの希望が多く、実習用にWSUより借用した2台のレンタカーを運用し、引率教員による運転で無理の少ない対応ができた。
- ・ 食事は、周辺のレストランあるいはホテル内で自炊するなど選択肢を広げ、各自自由に食事をとらせた。

6) 現地会議について

- ・ 令和7年8月15日 ワシントン州立大学夏期獣医臨床研修実施責任者と今年度の反省および今後について会議が行われた。
参加者: Robert, H. Mealey (獣医臨床学科長)、Yoko, M. Ambrosini (研修プログラム担当教員)、枝村一弥、関口尚希

	7) 研修終了後について 研修終了者は研修最終後に症例をまとめるレポートを全員に課した。
研修目的に対する成果	・米国の獣医臨床教育にチームとして参加することで、日本での獣医臨床教育との差異を体験した。 ・現地の臨床系教員だけでなくレジデントやインターンといった専門教育を受けている獣医師からの症例を通じた教育に触れることで、より専門知識を高めることができた。 ・特に、馬臨床は本学では経験できないため、生の臨床に接することで、教科書では得られない知識を会得することができた。 ・現地の学生と同じチームで臨床実習を受けることで、英語でコミュニケーションを行う重要性を認識することができた。また、現地学生と放課後に交流することで、現地の文化に触れることができた。 ・米国での獣医臨床研修を通じて、日本との診療技術や手順の違いを把握できたとともに、逆に日本の獣医臨床の優れている点も再確認できた。 ・本研修に参加した学生の感想を聴取したところ、大変満足したという感想が最も多く、学生にとってかけがえの無い体験ができたものと思われる。 ・さらに本研修の満足度を上げるために、来年度に向けて協議が始まった。

上記のとおり学科別海外研修を実施しましたので、ご報告いたします。

報告者 枝村 一弥 印